

20日午前中は、お騒がせして申し訳ありませんでした。

滋賀県は甲賀の里から、釜ヶ崎の就労支援について勉強と・・・

職安とセンターに挟まれた空間に多人数の「滞留者」は・・・

今週の月曜日は雨模様で、センターはいつもより多くの人がいました。そこをゾロゾロと20数名の男女が歩き、ご不快を感じた人もあるかと思えます。お詫びいたします。

来た人たちは、滋賀県は甲賀の里で、「まちづくり」に取り組んでいる人たち。就職困難な人の就職活動支援や生活相談に関心があつて、釜ヶ崎ではどんな取り組みがあるのか知りたいということでした。

「センター」は、求人求職のための場で、あいりん職安や西成労働福祉センターがありますから、こんな施設もありますということ、見学コース」に入ることになるのですが、随分前から、意味合いが変わっているように思っています。

「センター」のフロアは、通路でなく、生活空間である」と思えます。多くの人が、共有の、寝室として、居間として、娯楽室として使っているからです。

夜間学校ニュースを配る時は、人の生活空間に押し入り、生活リズムを乱す、ある種の後ろめたさを感じています。20数年前に、アブレ支給の時間帯に配っている時は、そんな気持ちは感じていなかったのですが・・・

ですから、「見学者」を引率してセンターに入ると、少し、緊張します。「おまえ、人をさらし者にして面白い」と怒られるのではないかと思つて。

幸い、今まで怒られた事はありません。「どこから、どんな人が、どんな目的で来たのか」は、時々きかれますが。

しかし、表だって怒られた事がないから、みんな何とも思っていないかという、そうでもないような気もします。不愉快には感じているけれども、公有空間を誰が歩こうと文句は言えないという「常識」が、不満に蓋をして、我慢している人もいます。

中には、「今現在、精一杯生きていく俺が選んだ生活スタイルだ、どうとでも見てくれ」と言う人もいます。かも知れませんが、「普通の生活」をしているだろう人々との対比で、ふと、「滞留者」としての自分に思い至り、何となく落ち込んだりしたかも知れません。

求人求職という本来の機能が影もなくなったセンターは、人影のない空間になるのがふさわしいと思つたのですが、どうでしょう。そのために、生活保護制度の活用を！

